

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

新潟リハビリテーション大学理学療法学専攻

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
医療学部 リハビリ テーショ ン学科理 学療法学 専攻	3人	1人	3人	3人	10人	6人	10人	0人	7人	14人	
計	3人	1人	3人	3人	10人	6人	10人	0人	7人	14人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎ゼミⅠ	30	星野浩通	専任
		基礎ゼミⅡ	30	若菜翔哉	専任
		基礎ゼミⅢ	15	長谷川裕	兼任
		基礎ゼミⅣ	15	長谷川裕	兼任
		基礎ゼミⅤ	15	大矢薫	兼任
		臨床倫理学	15	山村千絵・村井絹子	兼任
		地域文化論	15	桑原猛	兼任
		日本語表現	15	上松恵理子	兼任
		心理学概論Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
		心理学概論Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
		医療行動科学Ⅰ	15	和田剛宗	兼任
		医療行動科学Ⅱ	15	和田剛宗	兼任
		社会と健康Ⅰ	15	中川明仁	兼任
		社会と健康Ⅱ	15	長谷川裕・藤本聡	兼任
		法律と医療Ⅰ	15	向田怜史	兼任
		法律と医療Ⅱ	15	向田怜史	兼任
コミュニケーション心理学Ⅰ	15	西村信子	兼任		

コミュニケーション心理学Ⅱ	15	西村信子	兼任
統計学Ⅰ	15	中川明仁	兼任
統計学Ⅱ	15	中川明仁	兼任
基礎生命科学	15	平田恒彦	兼任
医生物化学Ⅰ	15	平田恒彦	兼任
医生物化学Ⅱ	15	平田恒彦	兼任
人間支援科学Ⅰ	15	西村信子	兼任
人間支援科学Ⅱ	15	丁子雄希	兼任
物理学Ⅰ	15	藤本聡	兼任
物理学Ⅱ	15	藤本聡	兼任
レクリエーション	15	田嶋雄洋	兼任
スポーツ実践	15	粟生田博子	専任
情報処理技法Ⅰ	30	浅海岩生	兼任
情報処理技法Ⅱ	15	浅海岩生	兼任
コンピューターと人間の接点Ⅰ	15	浅海岩生	兼任
コンピューターと人間の接点Ⅱ	15	浅海岩生	兼任
医療英語ベーシック	15	鈴木美和子	兼任
医療英語アドバンス	15	伊藤知明	兼任
医療英会話ベーシック	15	Sam Suleiman	兼任
医療英会話アドバンス	15	Sam Suleiman	兼任
中国語	15	橋本親往	兼任
医療英文抄読法Ⅰ	15	原亜由美	兼任
医療英文抄読法Ⅱ	15	原亜由美	兼任

		国際理解演習 I	15	小池郁代	兼任
		国際理解演習 II	15	小池郁代	兼任
基礎専門分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学・総論 I	15	松村博雄	兼任
		解剖学・総論 II	15	松村博雄	兼任
		解剖学・総論 III	15	松村博雄	兼任
		解剖学・各論 I	15	西野幾子	兼任
		解剖学・各論 II	15	西野幾子	兼任
		解剖学実習	45	松村博雄	兼任
		生理学 I	15	山口賢一	兼任
		生理学 II	15	山口賢一	兼任
		生理学 III	15	宮岡洋三	兼任
		生理学実習	45	木村和樹・星野浩通/長谷川裕・藤本聡・高橋圭三	専任/兼任
		神経生理学 I	15	黒瀬雅之	兼任
		神経生理学 II	15	黒瀬雅之・山村健介	兼任
		病理学概論	15	平田誠市	兼任
		医学概論	15	鈴木薫	兼任
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学 I	15	高橋英明
	公衆衛生学 II		15	高橋英明	兼任
	臨床心理学概論 I		15	和田剛宗	兼任
	臨床心理学概論 II		15	和田剛宗	兼任
	発達心理学 I		15	西村信子	兼任
	発達心理学 II		15	西村信子	兼任
	内科学 I		15	杉谷想一	兼任
	内科学 II		15	杉谷想一	兼任
	整形外科学 I		15	栗生田博子	専任
	整形外科学 II		15	栗生田博子/真柄彰	専任/兼任
	臨床神経学 I		15	高橋英明	兼任
	臨床神経学 II		15	高橋英明	兼任
小児科学	15		長谷川聡	兼任	
精神疾患とその治療	15		的場已知子	兼任	

	リハビリテーション工学	15	星野浩通	専任
	リハビリテーション医学	15	高橋明美・小林量作/ 真柄彰	専任 兼任
	救急救命医学	15	村上市消防本部・村井絹子	兼任
	薬理学	15	桑島治博	兼任
	栄養学	15	宮岡里美	兼任
	感染症学	15	平田恒彦	兼任
	高次脳機能障害学概論	15	伊林克彦	兼任
	摂食・嚥下障害学概論	15	山村千絵	兼任
	基礎運動学Ⅰ	15	粟生田博子	専任
	基礎運動学Ⅱ	15	若菜翔哉	専任
	基礎運動学Ⅲ	15	若菜翔哉・押木利英子	専任
	予防リハビリテーション学	15	松林義人	兼任
	老年心理学	15	宮岡里美	兼任
	認知症	15	伊林克彦	兼任
	心理測定法Ⅰ	15	中川明仁	兼任
	心理測定法Ⅱ	15	中川明仁	兼任
	知覚・認知心理学Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
	知覚・認知心理学Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
	学習・言語心理学Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
	学習・言語心理学Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	高橋明美/藤本聡・大矢薫	専任/兼任
	社会保障論	15	鈴木昭	兼任
	公的扶助論	15	林正海	兼任
	権利擁護と成年後見制度論	15	林正海	兼任
	地域包括ケア論	15	林正海	兼任
	福祉財政論	15	鈴木昭	兼任
	チーム医療学Ⅰ	15	押木利英子・粟生田博子	専任

専門分野

	チーム医療学Ⅱ	15	長谷川裕・藤本聡/ 高橋明美・長島裕子	兼任/専任
基礎理学療法学	理学療法概論	30	押木利英子	専任
	動作解析学実習Ⅰ	30	星野浩通	専任
	動作解析学実習Ⅱ	30	星野浩通	専任
	理学療法研究法Ⅰ	15	小林量作	専任
	理学療法研究法Ⅱ	15	小林量作	専任
	理学療法研究法Ⅲ	15	小林量作	専任
	基礎運動療法学Ⅰ	30	金子巧	専任
	基礎運動療法学Ⅱ	30	金子巧	専任
	臨床運動学	30	粟生田博子	専任
理学療法管理学	職場管理学	15	未開講	
	職業論理	15	未開講	
理学療法評価学	理学療法評価学	15	北村拓也	専任
	理学療法評価学実習Ⅰ	30	北村拓也・長島裕子・若菜翔哉	専任
	理学療法評価学実習Ⅱ	30	北村拓也・長島裕子・若菜翔哉	専任
	理学療法評価学演習	30	粟生田博子	専任
	理学療法画像評価学	30	高橋明美	専任
理学療法治療学	物理療法学	30	星野浩通	専任
	物理療法学実習	45	星野浩通	専任
	日常生活活動学	30	木村和樹・若菜翔哉	専任
	日常生活活動学実習	30	木村和樹	専任
	運動器疾患理学療法学Ⅰ	15	北村拓也	専任
	運動器疾患理学療法学Ⅱ	15	北村拓也	専任
	運動器疾患理学療法学実習	30	北村拓也	専任
	中枢神経疾患理学療法学Ⅰ	15	高橋明美	専任

	中枢神経疾患理学療法学Ⅱ	30	高橋明美	専任
	中枢神経疾患理学療法学実習	30	高橋明美	専任
	神経・筋疾患理学療法学	30	小林量作	専任
	発達障害理学療法学	30	押木利英子	専任
	循環器疾患理学療法学	15	宗村和幸	兼任
	代謝系疾患理学療法学	15	木村和樹	専任
	呼吸理学療法学Ⅰ	15	木村和樹	専任
	呼吸理学療法学Ⅱ	15	木村和樹	専任
	スポーツ理学療法学Ⅰ	15	栗生田博子	専任
	スポーツ理学療法学Ⅱ	15	栗生田博子	専任
	老年期理学療法学	15	小林量作	専任
	触察技術学	30	長島裕子・若菜翔哉・金子巧	専任
	義肢・装具学Ⅰ	15	須田裕紀	兼任
	義肢・装具学Ⅱ	15	木村和樹・長島裕子	専任
地域理学療法学	生活環境論Ⅰ	15	木村和樹・長島裕子・金子巧	専任
	生活環境論Ⅱ	15	木村和樹・長島裕子	専任
	地域リハビリテーション論Ⅰ	15	小林量作	専任
	地域リハビリテーション論Ⅱ	15	若菜翔哉	専任
臨床実習	見学実習	180	長島裕子	専任
	評価実習	225	栗生田博子	専任
	総合臨床実習Ⅰ	360	北村拓也	専任
	総合臨床実習Ⅱ	360	北村拓也	専任
特論	理学療法トピックスⅠ	15	北村拓也	専任
	理学療法トピックスⅡ	15	金子巧	専任

	理学療法卒業研究Ⅰ	30	理学療法学専攻教員	専任
	理学療法卒業研究Ⅱ	15	理学療法学専攻教員	専任
	理学療法卒業研究Ⅲ	15	理学療法学専攻教員	専任
	理学療法応用ゼミⅠ	30	粟生田博子・星野浩通・木村和樹	専任
	理学療法応用ゼミⅡ	30	粟生田博子・星野浩通・木村和樹	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
患者への対応等についての見学 見学実習	2年通年	理学療法学概論	1年通年
		理学療法評価学	1年後期
患者の状態等に関する評価の実践 評価実習	3年後期	理学療法評価学実習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年後期
		理学療法評価学演習	3年前期
		理学療法画像評価学	3年前期
		日常生活活動学	2年後期
		運動器疾患理学療法学Ⅰ	2年後期
		運動器疾患理学療法学Ⅱ	3年前期
		中枢疾患理学療法学Ⅰ	2年前期
		中枢疾患理学療法学Ⅱ	2年後期
		神経・筋疾患理学療法学	3年前期
触察技術学	2年前期		
患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療並びに治療効果判定の実践 総合実習	4年通年	物理療法学	2年後期
		物理療法学実習	3年前期
		日常生活活動学実習	3年前期
		運動器疾患理学療法学実習	3年前期
		中枢神経疾患理学療法学実習	3年通年
		発達障害理学療法学	2年通年
		循環疾患理学療法学	3年前期
		代謝疾患理学療法学	3年前期
		呼吸理学療法学Ⅰ	3年前期
		呼吸理学療法学Ⅱ	3年後期
老年期理学療法学	2年後期		

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	山村千絵
組織の開催頻度	適時
組織の取り組み内容	・ 中長期計画の進捗確認
	・ 全学の自己点検評価報告書の作成
	・ ガバナンスコードの点検
	・ 補助金調査項目に係る教育改革の点検
	・ 外部認証評価（大学基準協会）への対応

自己点検・評価結果の公表	HPで公表 URL : https://nur.ac.jp/about/public/hyoka/ https://nur.ac.jp/about/public/org/
--------------	---

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学部教務委員会
	委員構成等	副学長、各専攻長、事務局担当職員
	改善の仕組みの実際	毎年、シラバスに記載する注意事項について学部教務委員会で検討し、適時改善を図っている。決まった内容については、教員に周知し、各自が内容を点検しシラバスを作成している。 また、各科目について、学生からの授業評価アンケートを用いてシラバスに関する意見を学部教務委員会にて集約・解析し、その結果を基に次年度のシラバスの記載内容に反映させる仕組みがある。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2020年（令和2年）に財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、その結果、同協会の大学基準に適合していると認定された。「自己点検・評価報告書」ならびに「大学評価結果」については、大学ホームページで公開している (https://nur.ac.jp/reha/wp-content/uploads/file_20210326_hyoka01-1.pdf)
一般社団法人リハビリテーション教育評価機構より外部評価を受審し、2020年度に理学療法学専攻の適合認定を受けている (<https://nur.ac.jp/reha/wp-content/uploads/84f3bd531d6e8e504259ea67f30c2e96.pdf>)。